

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
 ブロック研究大会ポスター報告会
 四国ブロック（担当：愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗）

| | |
|----------------------------|--|
| <p>テーマ</p> | <p>リーダー会活動向上のための3Rの法則 【Review（再検討）・Reuse（再使用）・Reunion（再会）】</p> |
| <p>テーマ 設定理由</p> | <p>今回の事業では、リーダー会活動を活発化させるために、改めて、各県でどのような活動を行っていく必要があるかを再検討する。プログラム内における障害者スポーツやACPなどで得た知識を各県に持ち帰り、各種事業へ還元すること。そして、四国4県のリーダーが、様々なリーダー事業で再会を果たせるよう交流を深めることを目的とする。</p> |

◆期日

平成30年11月3日(土)～11月4日(日)

◆場所

えひめ青少年ふれあいセンター（愛媛県）



◆参加対象

スポーツ少年団リーダー会（中学生以上）代表者 各県5名以内

スポーツ少年団リーダー育成担当指導者 各県1名

◆参加者（内訳）

| | 愛媛県 | 香川県 | 徳島県 | 高知県 | 合計 |
|-------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| リーダー | 3名 | 5名 | 4名 | 4名 | 16名 |
| 育成担当 指導者 | 1名 | 1名 | 1名 | 1名 | 4名 |
| 合計 | 4名 | 6名 | 5名 | 5名 | 20名 |



◆経費

参加料：無料 旅費：参加者負担

◆運営スタッフの体制・運営方法

講師：田中 雅人（愛媛県スポーツ少年団副本部長：愛媛大学教授）

開催県事務局が開催準備（事務担当者：1名）

愛媛県リーダー会会員・育成担当指導者が開催準備および運営補助

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
 ブロック研究大会ポスター報告会
 四国ブロック（担当：愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗）

◆日程

| 1日目：11月3日（土） | 2日目：11月4日（日） |
|---|--|
| 12：30 受付 | 6：30 起床・清掃・荷物整理 |
| 13：30 開会式 オリエンテーション | 7：30 朝食 |
| 14：00 プログラムⅠ 『障害者スポーツ体験』 競技：ゴールボール 運営：河内 昂斗（愛媛県） | 8：30 部屋点検 |
| 15：00 プログラムⅡ 『ACPプログラム案作成』 講義：田中 雅人 | 9：00 プログラムⅣ 『ACP指導実践』 |
| 17：00 タベのつどい | 対象：四国スポーツ少年大会参加者 （小学生4年生～中学生1年生：28名） |
| 17：30 夕食 | 10：30 「ACP指導反省」 「テーマディスカッションまとめ」 |
| 18：30 プログラムⅢ 『各県取組報告』 『テーマディスカッション』 | 11：30 アンケート・閉会式 |
| テーマ：今、リーダーにできること ～東京2020オリンピック・パラリンピックを契機に～ | 12：00 昼食・解散  |

◆プログラム概要

プログラムⅠ

「障害者スポーツ体験：ゴールボール」

担当 愛媛県スポーツ少年団リーダー
河内 昂斗

「東京オリンピック・パラリンピックに向けて、
機運を高めていくため、実施。」

また、視力に障害を持つ人はどのような状況で、
生活しているのかを考える機会とした。ゲーム性
が高く、体験したことのある参加者も少なかった
こともあり、普段馴染みのないスポーツを体験す
ることができた。」



◆プログラム概要

プログラムⅡ

「ACPプログラム案作成」

講師 愛媛県スポーツ少年団副本部長

田中 雅人（愛媛大学教育学部教授）

《講義内容》

- ・現代の子どもたちの体力の減少について
- ・ACPが必要とされる理由

○プログラム作成に係る手順と方法について

- 1 実施希望種目を話し合い
- 2 各班と調整し、決定
- 3 プログラムの作成
- 4 用具を使って、リハーサル



◆プログラム概要

プログラムⅢ

その1「各県取組報告」

特に気になった取組

- ・ 県内イベントでのACPブース導入（愛媛県）
- ・ スポーツ少年団以外の青少年団体との交流（香川県）
- ・ リーダー会独自の広報紙（徳島県）
- ・ リーダー会のSNSアカウント設立（高知県）



その2「テーマディスカッション」

テーマ：今、リーダーにできること

～東京オリンピック・パラリンピックを契機に～

○ディスカッションの流れ

- 1 各班で、出来るだけ多くの意見を出し合う
- 2 各県毎に、班で出した意見を参考に各県で実施可能な内容を考える



◆プログラム概要

プログラムⅣ

「ACP指導実践」

対象者：四国スポーツ少年大会参加者

（小学4年生～中学1年生 計28名：4班）

○各班作成プログラム

1班 ボール取り合戦～平成最後の戦い～

用具 ボール、フラフープ

期待できる効果 走力向上、判断力の向上

2班 しっぽとりおに

用具 タスキ、ビブス

期待できる効果 体力向上、協調性の向上

3班 Changing Color

用具 ケンパーリング、タスキ、カラーコーン

期待できる効果 敏捷性、判断力

4班 フラドンジャン

用具 カラーコーン、フラフープ、ホイッスル

期待できる効果 巧緻性、敏捷性、跳躍力



◆プログラム概要

プログラムⅣ

「ACPプログラム反省」

参加者の感想

○内容・時間は

- (①良くない 0 ②あまり良くない 0
 ③良い 5 ④大変良い 22 未回答 1)

良かった理由

- ・やったことのない遊びをして楽しかった。
- ・リーダーと交流できて良かった。
- ・いろんなゲームができたから
- ・リーダーが優しく接してくれた。
- ・全てみんなと協力できた。
- ・みんなが笑えるようなゲームで楽しかった。
- ・リーダーも混ぜるするのが良いと思った。

悪かった理由

- ・もう少し身体を動かしたかった。



令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
 ブロック研究大会ポスター報告会
 四国ブロック（担当：愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗）

◆プログラム概要

プログラムⅣ

「 ACPプログラム反省 」



1班 ボール取り合戦

○良かった点

- ・ルールがわかりやすい。
- ・ただ動くだけでなく、コミュニケーションを取れる。
- ・さまざまなバリエーションでできた。

○改善点

- ・参加者がぶつかりそうな場面が多かった。
- ・移動中の動作で、課題を与える。

2班 しっぽとりおに

○良かった点

- ・敏捷性だけでなく、頭を使いながら活動できた。
- ・長い時間動いたため、体力をつけることができた。

○改善点

- ・鬼の数と逃げる人数のバランスを改善したい。
- ・端の方において、動かない子どももいた。

3班 Changing Color

○良かった点

- ・掛け声が英語や指定のない色も混ぜて、判断力も養った。
- ・どこから鬼が来るかわからないため、参加者の集中力が高かった。

○改善点

- ・説明をよりわかりやすくする。
- ・移動中の動作で、課題を与える。

4班 フラドンジャン

○良かった点

- ・スキンシップがあるため、コミュニケーションを自然に取れる。
- ・走能力・敏捷性・ジャンプ力など、さまざまな体力要素を取り入れている。

○改善点

- ・次の順番で待っている子たちが、暇になる。
- ・コースが簡単で、1人でゴールまで行ってしまいうケースがあった。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会
 ブロック研究大会ポスター報告会
 四国ブロック（担当：愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗）

◆大会を開催した成果、反省、課題
 （アンケート集計結果）※参加者21名



| 質問項目 | ①未回答 | ②良くない | ③あまり良くない | ④良い | ⑤大変良い | ④or⑤ 回答率 |
|--------------------------|------|-------|----------|-----|-------|-------------|
| 1 アイスブレイクの内容・ 時間は | 2 | 0 | 1 | 16 | 2 | 85% |
| 2 ゴールボールの内容・ 時間は | 2 | 0 | 0 | 9 | 10 | 90% |
| 3 ACPプログラム作成の 内容・時間は | 2 | 0 | 2 | 11 | 6 | 80% |
| 4 各県の取組報告の内容・ 時間は | 2 | 0 | 2 | 15 | 2 | 80% |
| 5 テーマディスカッション の内容・時間は | 2 | 0 | 2 | 11 | 6 | 80% |
| 6 ACP指導実践の内容・ 時間は | 2 | 0 | 0 | 10 | 9 | 90% |
| 7 ACP指導反省の内容・ 時間は | 2 | 0 | 0 | 12 | 7 | 90% |

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 ブロック研究大会ポスター報告会 四国ブロック（担当：愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗）

◆大会を開催した成果、反省、課題

（アンケート集計結果）※参加者21名

1 アイスブレイクの内容・時間は

○良かった点

- ・他県の人の名前が知れた。
- ・自己紹介に向いている内容だった。

2 ゴールボールの内容・時間は

○良かった点

- ・普段行う機会が無いから。
- ・パラリンピックに興味を持つことができた。
- ・班の人たちと仲を深められた。

○改善点

- ・時間やルールが曖昧だった。

3 ACPプログラム作成の内容・時間は

○良かった点

- ・普段、ACPの活動内容を考えることが無いから。
- ・様々な案が出てきて、良いものを作ることができた。
- ・実施にやってみながら、プログラムを作れたから。

○改善点

- ・少し時間が足りなかった。

4 各県の取組報告の内容・時間は

○良かった点

- ・他県の良い所を吸収できる。
- ・短くても伝えたいことをまとめて言われていた。

○改善点

- ・もう少し、詳しく聞きたかった。

5 テーマディスカッションの内容・時間は

○良かった点

- ・パラリンピックについて、話せたのは良い機会だった。
- ・班で考えてから各県で考えたのは、意見が増えて、まとめやすかった。

○改善点

- ・ディスカッションのテーマが大きい内容のため、例年話し合う内容（リーダー不足）が偏ってしまう。

6 ACP指導実践の内容・時間は

○良かった点

- ・自分たちが作成したものを実践できて、うれしかった。
- ・小学生も楽しめていたから。
- ・シニア・リーダースクールでできなかったから。

7 ACP指導反省の内容・時間は

○良かった点

- ・問題点を違う班の人に指摘されて客観的にまとめられた。
- ・さらにより良いものになるために、改善点を見つけられた。

令和元年度全国スポーツ少年団リーダー連絡会 ブロック研究大会ポスター報告会 四国ブロック（担当：愛媛県リーダー代表者 河内 昂斗）

総括

「プログラム全体を通して、実践を伴う活動をメインに行ったため、体験的に学ぶことができたことに加え、リーダー同士の交流を深めることができた。また、指導実践をプログラムの作成から反省まで行うことができたため、現状の課題を明確にすることができた。

一方で、各プログラムを詰め込んで、実施したため、各プログラム内の時間不足を指摘する意見が多かった。

今回の研究大会で得た知識を各県に還元し、リーダー会活動をさらに促進していくことを四国ブロックの共通認識とする。」



2019年度は、香川県で開催！